

2020年度 NPO法人 Learning for All 活動報告書



Learning for All
**新型コロナ
緊急支援プロジェクト**
by Learning for All
多大な影響を受けている
子どもたちの
今と未来を守りたい。
NEXT GOAL 1,200万円

NHK
李炯植 (30)
貧困の連鎖を生まない
社会のシステムの実現

直近の情報も掲載有！



Learning for All 2020年度活動報告

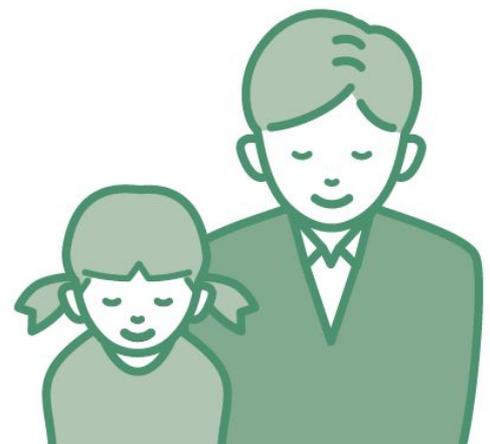
2020年度は新型コロナウイルスの蔓延によって
子どもたちの育まれる環境に大きな困難と危機が生じました。

そんな中、大変多くの方々のあたたかいご協力により
例年以上に密度濃く、幅広い支援活動を行うことができました。

支えてくださったすべての方に心より感謝申し上げますとともに、
本活動報告をお届けいたします。

目次

- ◇2020年度 居場所づくり事業活動報告
- ◇2020年度 学習支援事業の活動報告
- ◇コロナ緊急支援レポート
- ◇保護者支援報告
- ◇ノウハウ展開事業報告
- ◇普及啓発・アドボカシー報告
- ◇メディア掲載
- ◇その他トピック
- ◇収支報告
- ◇職員・スタッフからのメッセージ



居場所づくり事業(2020年度)

様々な事情から学校や家庭で安心して過ごす環境が整っていない子どもたちに居場所を提供し、生活基盤を整える支援を行っています。一人ひとりのニーズに合わせて、複雑に絡みあった課題に対応し、密度の高い支援を届けています。



70人

の子どもを
重点支援

268回

子ども食堂を
開催

※2020年度ユニーク数

⇒子どもたちの変化



小学低学年 Aくん

遊びから学習への移行が困難で、集中力もなかなか続かなかったAくん。

Aくんは褒められると素直に受け入れられるという長所があったため、それを活用して短所を改善するアプローチを行いました。

予定の5分前に声をかけ、3分前には促した上で一緒に片付けをし、共に机に向かって学習を行いました。始めのうちはなかなか移行がスムーズにいかなかったり、集中のスイッチが入るまでに時間がかかったり。

しかし、「先週より1分早く片付けられた」「この間より漢字の学習にかかった時間が短かった」等の些細な点を褒めることを積み重ねると、**だんだんと時計を見て「もうすぐだね」とAくんから切り出したり、「今日はこれとこれとこれをする」と学習の見通しを最初に立てられるようになってきました。**



高校生 Bさん

長年不登校が続いているBさん。過去に学校の先生から心無い言葉を投げかけられたことをきっかけに、**大人への不信感を持っていました。**

大人と関わることへの抵抗からか、常に自分を大きく見せるような発言や態度が見られ、頻繁に小さな嘘をつくことも。

大人と距離を取るようなコミュニケーションが多かったBさんですが、居場所拠点で1年間、LFAスタッフの裏表のないコミュニケーションに触れる中で、**徐々に態度がやわらかくなっていきました。**

次第に表情もおだやかになり、スタッフとのコミュニケーションでも、素直な自分を見せられるように。今では拠点を自分の“居場所”として捉え、拠点がさらに良くなるようなアイデアを考えて提案したり、自らスタッフの手伝いをしてくれるようになりました。

居場所づくり事業(2020年度)

⇒プログラム参加学生の声

私が居場所支援プログラムを選んだのは、居場所での生活を通して子どもたちや親御さんの心に触れる機会が多く、より将来の目標や道筋が明確になるのではないか、そして役立つのではないかと感じたからです。(プログラム参加を通して、) **子どもの見方が180度変わりました。**

以前「子ども=子ども」であり、成長して大人になっていくものだと思っていました。

しかし子どもたちと接する中で「子ども=人」であり、大人も時として子どもになり得る人なのだと考えるようになりました。

このような関わりから私も子どもも一人の人だと感じるようになり、**常に同じ目線に立って接することを心がけるよう**になりました。(山本さん)

※インタビューはこちら→

<https://learningforall.or.jp/cms/topics/interview/student1221/>



学習支援事業(2020年度)

小学校4年～高校3年生の子どもたちを対象に、地域や学校と協力して無償の「学習支援拠点」を設置しています。

大学生ボランティアが教師となって、学習遅滞を抱えた子どもたちに寄り添って勉強を教えています。

358人
の子どもを支援

※2020年度ユニーク数

496名
の大学生が参加

※2020年度延べ数



子どもたちの変化



中学3年生 Tくん

小学3年生から不登校だった中学3年生のTくん。

Tくんは、自分の思いや考えを言葉にすることがあまり得意ではありませんでした。

何か質問を投げかけても首を傾げて黙ったままだったり、「わかんない」という返事が返ってくることもしばしば。

担当のボランティア教師は、Tくんに多くの選択肢の中から将来自分のやりたいことを選択してほしいと思っており、高校進学を考えているTくんに対し、進学するための学力はもちろんのこと、高校生活を楽しむために、友人関係を築くコミュニケーション能力を高める必要があると考えました。

そこでボランティア教師は、Tくんの趣味である自転車について調べてきてもらい、その内容を新聞形式でまとめ、話してもらおう機会を設けました。するとTくんはイキイキとした様子で様々なことを話し、質問に対しても臆することなく返答してくれました。

その後、授業を重ねていくうちに「先生これ見て！」などの発言も増え、Tくんからのコミュニケーションが増えました。

外国にルーツを持つ小学6年生のMくん。

将来を見据えて予習・復習に日々励むこと、自分の意思を言語化することなどは習慣として身につけていましたが、早く計算することに重きを置いてしまい、ケアレスミスをしてしまったり、「自分は頑張っていない」「バカだ」というネガティブな発言も少なくありませんでした。

まず、担当のボランティア教師はケアレスミスを減らすために見直しの重要性を伝え、筆算の位をそろえて計算してもらうように。

ネガティブな発言に対しては、「いつも授業も集中して聞いてくれているし、予習・復習も欠かさずやっていて頑張っているから、自信をもって」という声掛けを意識的に行うようにしました。

その結果、Mくんは自分で間違いに気づけるようになり、ネガティブな発言も、当初に比べるとさほど見られなくなりました。



小学6年生 Mくん

📖 プログラム参加学生の声



学習遅滞を抱える子どもたちと接して実感したのは、**子どもの周りの環境や社会のシステムが、子どもの困り事や生きづらさの原因をつくってしまっている**ということです。そしてこれらの問題が放置された結果、「**成績が悪い子**」や「**頑張らない子**」という烙印を押され、自信を失い、将来に明るい希望を持ってないのは、**何の責任もなかったはずの子どもたち**なのです。

LFAで出会った子どもたちは、**困難な状況にあるにも関わらず、全員が一生懸命勉強に取り組んでくれました**。その子たちのことを考えると、現状のままでは満足できません。これからも子どもにとって理想の社会とは何かを常に考え、実際に行動し続けることで社会を少しずつ変えていかなければならないと思うようになりました。(大園さん)

※インタビューはこちら→

<https://learningforall.or.jp/cms/topics/interview/student1119/>

参加する前までは、現場に行けば子どもの貧困はいろんな形で目に見えてくると思っていたんです。

しかし、実際に参加してみると**子どもの貧困はなかなか表面上では分かるものではない**と実感しました。例えば、私が指導していた生徒は生活保護受給のご家庭だと聞いていましたが、彼女の振る舞いや普段の様子からはそのようなご家庭状況だとは気づかないと思います。このように、見えづらい貧困を抱えた子どもたちの姿を目にしたころから、「**一見豊かそうに見える日本の不可視化されている貧困問題**」に対する**問題意識を持つ**ようになりました。(佐藤さん)



※インタビューはこちら→

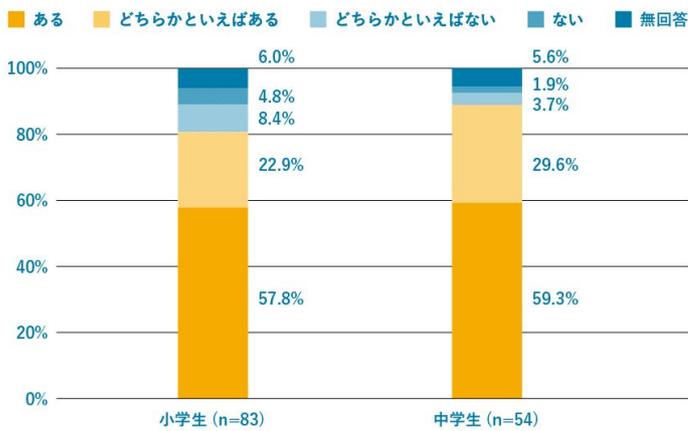
https://learningforall.or.jp/news/column/interview_v13.html

データで見る 子どもたちの変化

2020年8月に実施したアンケートでは、80%以上の子どもが、LFAに通うようになって、できることや成長したことがあると回答しました。

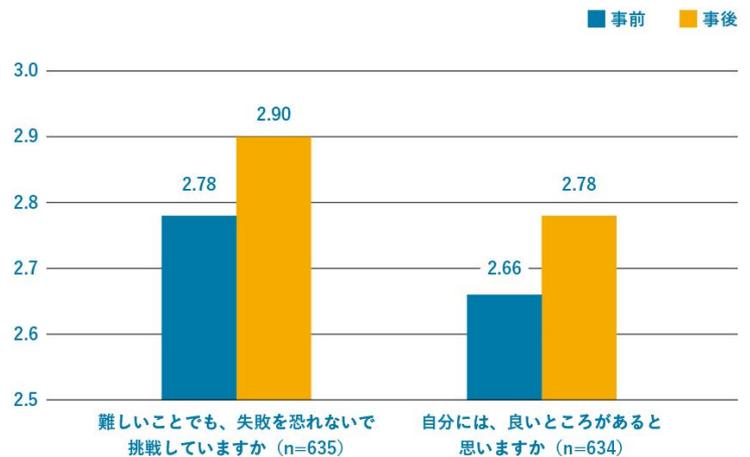
また、失敗を恐れず挑戦している。自分に良いところがあると答えた子も増えて います。

LFAの拠点に通うようになって、できるようになったことや成長したことはありますか？



(出所) 子どもアンケート(2020年8月実施調査)

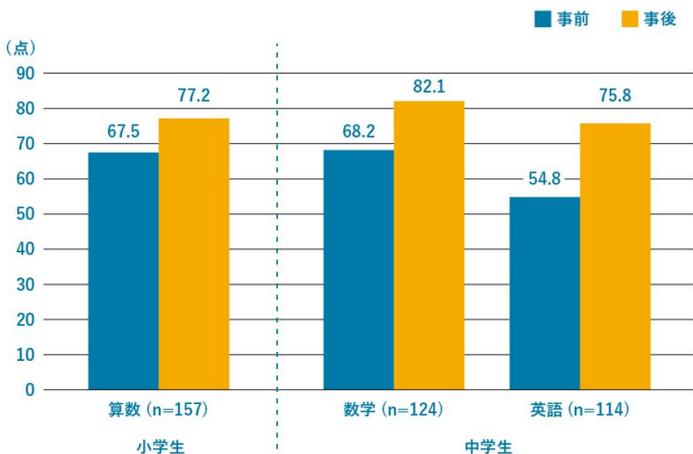
失敗を恐れずに挑戦している、自分には良いところがあると思う (中学生)



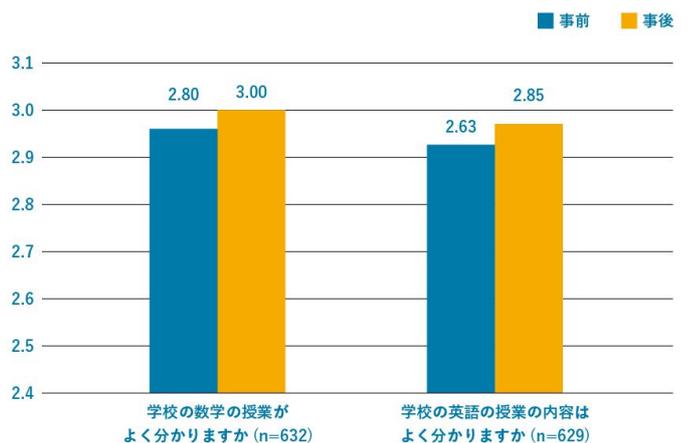
(注)4段階の回答のうち、「あてはまる」を4、「あてはまらない」を1としたうえで平均を取った値。2018年以前に収集したアンケートの結果を含む。事前と事後の差は、いずれも統計的に有意。(出所)学習支援アンケート

学校の授業がよくわかるようになり、学力テストでも平均10点以上の伸びが見られました。

学力テストの得点 (小学生・中学生)



学校の授業がよくわかる (中学生)



左図:(出所)学力テスト 右図:(注)4段階の回答のうち、「あてはまる」を4、「あてはまらない」を1などとしたうえで平均を取った値。CES拠点以外で収集したアンケートの結果を含む。事前と事後の差は、いずれも統計的に有意。(出所)学習支援アンケート

コロナ緊急支援レポート

2020年度は、通常の支援事業に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて困難な状況に陥った子どもたちのために、コロナ緊急支援プロジェクトを行いました。



プロジェクトの一環として立ち上げたクラウドファンディングでは、日頃ご支援くださっておりますサポーターの皆さまからも多くのご協力をいただき、最終的に1240万円ものご支援をいただくことができました。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によってより困窮している世帯が、「本当に必要としているもの」は何なのかを把握するために、72世帯を対象にアンケート調査も実施。

結果から明らかになった子どもたち・保護者様のニーズを叶えるために、様々な支援を行いました。

生活物資支援

アンケートの結果から、「生活に必要な物資」に高いニーズがあることが明らかに。

LFAでは3月～12月の10か月間で、169世帯に対し1,446回の物資支給を実施してまいりました。

(※世帯数、支給回数はいずれも延べ数)

169世帯
へ支給実施

1,446回
の支給実施

※3月～12月の期間の延べ数

箱詰めされた
大量の支援物資



現在はコロナ禍の影響で十分に栄養の取れていない子どもや、その家庭を中心に、フードパントリーを実施しています。

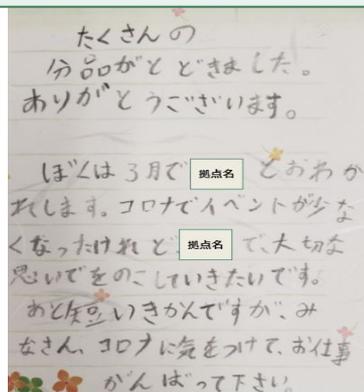
配布する食材などを確保し、それを拠点等で配っていくことで、人と人とのつながりを作り、結果的にコミュニティ形成も目的とした取り組みです。

LFAではコロナ禍でも子どもたちが安心して毎日を過ごせるよう、家庭も含めてサポートしてまいります。

コロナ対策で欠かすことができないマスクや除菌シート等も支給しています



子どもから寄せられたお手紙
※拠点名とはLFAが運営している
居場所拠点の意味



食料だけでなく、ノートや鉛筆等も支給しました



📁 コロナ緊急支援レポート

📺 オンライン支援・オフライン支援

Learning for All では、新型コロナウイルスの影響に伴い、早期にオンラインによる支援を開始しました。

学校が休校の期間中には、一人では宿題に取り組めない子どもや、ずっと家の中にいることによって生じた不安やストレスを一人で抱える子どもとオンラインで交流することで、学習遅滞の防止や、子どものストレスの解消につなげました。

1,785回
オンライン支援
実施

1,835回
オフライン支援
実施

タブレットセット



借りた人だけ：Wifiセット



学校の再開後も、新型コロナウイルス感染対策の一環で、子ども同士の話し合い学習や給食時間の交流がかなり制限されてしまっています。さらに学習面以外でも、修学旅行をはじめとした学校行事が全て中止になってしまうなど、子どもたちにとって大きなストレスとなる状況が続いています。

オンライン支援は、身近な大人や友達と自由に話せる時間を確保することで、子どもたちのストレス解消といった影響だけでなく、学習へのモチベーションの向上につながっています。

勿論、オンラインでの指導では、子どもの手元が見えないため何が分からないのか判断しづらかったり、家の中では子どもが勉強に集中できない、といったケースもあります。そのため、回答はZoomの画面共有機能を使用してタブレットの画面上に書き込んでもらったり、答え合わせの際には答えだけではなく、答えを出す過程までを言語化して教師に伝えてもらうなど、**オフラインと変わらない質で支援を届けられるような工夫**を行っています。

また、オンラインでの指導によって、子どもたちの過ごす家庭の様子を画面越しに知ることができ、家庭での学習環境について具体的に打ち手を提案できるようにもなりました。



高校に通っていない17歳の男の子(学力は中学生程度)。高校に通っていないため勉強の習慣がなかったが、週1回のオンライン指導をきっかけに「勉強する習慣がついた」と教えてくれました。彼は今、海外のYouTube動画を英語で理解できるようになる、という目標を叶えるために、日々先生とオンライン越しにYouTubeを一緒に見ながら勉強に励んでいます。

保護者支援報告

保護者の相談支援

2020年度は、通常の保護者支援に加え、新型コロナウイルスの影響で更に苦しい状況におかれた保護者様の精神的負担を軽減するために、個別相談支援及び情報発信も積極的に行いました。



2,008回
の支援

100世帯
を対象

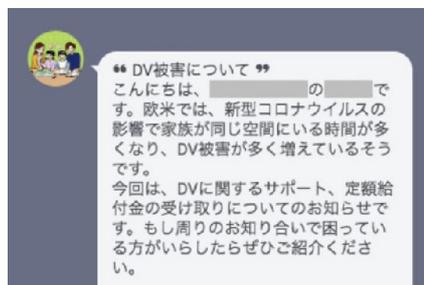
※4月~12月に実施した、メッセージの配信数、個別相談支援実績等の総のべ数

保護者様からの相談受付

保護者様の希望や相談内容に応じて、LINEやメール、電話、対面で保護者様からの相談を受け付けました。内容は子育て、就職、健康、コロナ関連の制度利用等に関する相談・悩みなど多岐にわたり、専門家の監修を受けながら実施しています。必要に応じて行政の担当者につなぐなどの対応も行いました。また、保護者会を開催し、保護者様同士で交流、相談し合える場づくりにも取り組んでいます。今後も引き続き、支援を行っていきます。

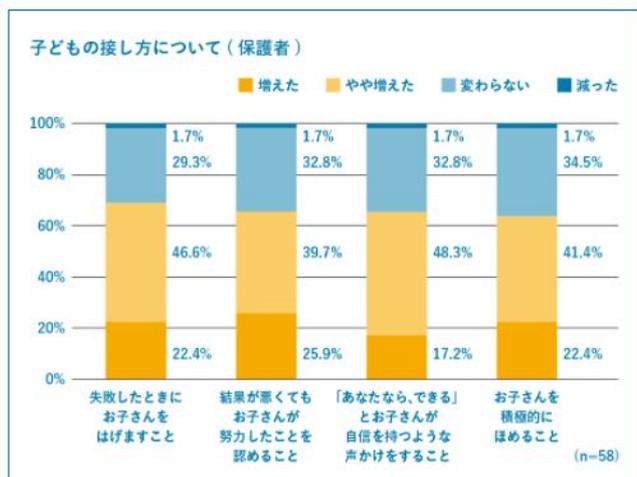
情報発信

コロナ関連の制度や手続きを分かりやすくまとめたり、メンタルヘルス関連情報を提供するなど、積極的な情報発信に取り組みました。他にも実用的な情報として、手軽にできる料理レシピなども配信し、多いときには月に10件以上の情報を提供しました。

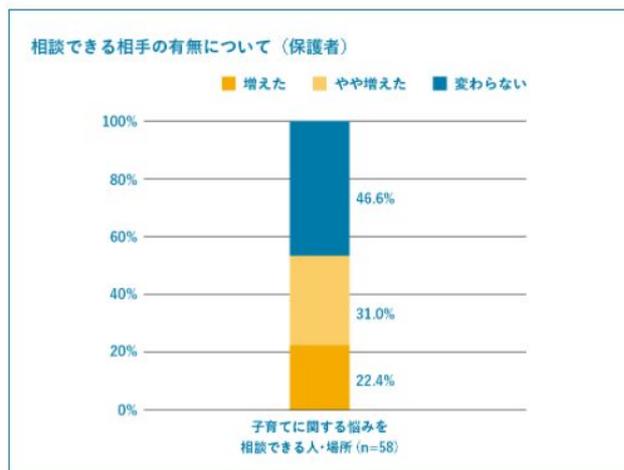


60%以上の保護者の方が、「失敗したときにお子さんをほげますこと」や、「結果が悪くてもお子さんを努力したことを認めること」が増えたと答えています。

50%以上の保護者の方が、子育てに関して相談できる相手が増えたと回答しています。



(出所) 保護者向けアンケート



(出所) 保護者向けアンケート

ノウハウ展開事業報告

⇒ 全国の子ども支援団体/企業にノウハウを提供

LFAでは2020年度、これまで培ってきた実践的な支援のノウハウを全国の子ども支援団体や企業に提供。動画教材を使ってオンラインで研修を受けられるe-learningやテスト・教材DL・集合研修など様々な方法で、全国36の子ども支援団体様や企業様にノウハウを提供しました。

36団体
へe-learning
を展開

72名
に研修を実施

※4月～12月に実施分。研修については他団体と共同実施分も含む

支援ノウハウ提供先団体・企業

36 団体

(全国 16 都道府県)



⇒ 全国の支援者同士のノウハウ共有プラットフォーム『こども支援ナビ』も始動

子どもたちの抱えている複雑な課題に対し、一つの専門性だけで対応できないのが「子ども支援」。

2021年5月より、全国の子ども支援者がノウハウを共有し、支え合えるオンラインプラット『こども支援ナビ』を開発しました。

ノウハウの共有を通して、支援者同士のネットワークづくりにも力を入れていきます。



普及啓発・アドボカシー報告

代表 李が菅総理に子どもの貧困対策を提言！

子どもの貧困など協議
首相、NPO理事らと面会
菅義偉首相は27日、首相
公邸で子どもの貧困や孤
立、難民支援などに取り組
むNPO法人や非政府組織
(NGO)などの理事らと
相次いで面会した。コロナ
禍で貧困などに苦しむ子ど
もや家庭を支えるNPOか
ら現場の声を聞き、対策づ
くりを生かす。

2021年3月27日(土)にLearning for All (以下、LFA) 代表 李が菅総理と面会し、直接総理へ「子どもの貧困」に関する政策提言を行いました。

6月9日(水)発表された政府の基本方針にも、LFAによる提言の内容が反映されていると見える箇所がありました。

「子供の視点にたっ
て、各ライフステー
ジに応じて切れ目の
ない対応を図る」

「子供や家庭の支援
体制を充実強化す
る」
などが明記！

(2) 未来を担う子供の安心の確保のための環境づくり・児童虐待対策

子供の貧困、児童虐待、重大ないじめなど子供に関する様々な課題に総合的に対応するため、年齢による切れ目や省庁間の縦割りを排し、妊娠前から、妊娠・出産・新生児期・乳幼児期・学童期・思春期を通じ、子供の視点にたって、各ライフステージに応じて切れ目ない対応を図るとともに、就学時に格差を生じさせない等の教育と福祉の連携、子供の安全・安心の確保、データ・統計の充実等を行い、困難を抱える子供への支援等が抜け落ちることのないような体制を構築することとし、こうした機能を有する行政組織を創設するため、早急に検討に着手する。

児童虐待防止対策について、児童福祉法等改正法附則に基づき、子供の支援に携わる者の資質の向上に向けた資格の在り方、司法関与の強化も含めた一時保護の適正手続きの確保、子供の権利擁護、家庭養育優先原則の徹底等について、検討に基づき必要な措置を講じる。児童の健全育成推進や虐待予防の観点から、支援を要する子育て世帯に支援が行き渡るよう、未就園児の効果的な把握や母子保健と児童福祉のマネジメント体制の再整理などについて検討し、所要の措置を講ずるとともに、児童相談所を含めた子供や家庭の支援体制を充実強化する。

内閣府 経済財政諮問会議 資料1 経済財政運営と改革の基本方針2021(仮称)原案より→
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2021/0609/shiryo_01.pdf

コロナ禍の子どもたちへの支援強化を国に要請 ふたり親の困窮世帯にも、子ども一人あたり5万円の給付を実現！

2月8日(月)厚生労働省にて、Learning for All (以下、LFA) 代表・李をはじめ、日本国内で子どもの貧困やひとり親家庭の支援に取り組む団体の代表者や研究者が「**新型コロナの影響で困窮する子育て世帯に対して現金を給付を**」という要望を政府に対して発表しました。

要望発表の背景として、**子育て世帯への現金給付をめぐる**は、「ひとり親世帯」に対しては、これまで2回の給付が行われておりますが、**両親がいる世帯(ふたり親世帯)は国からの支援が受けにくい現状** があります。今回は「**全ての子どもたちが平等に支援が受けられるように**」という願いから、**ふたり親を含めた住民税非課税などの世帯を対象に第一子は5万円、第二子以降は1人当たり3万円の給付金を3月中旬に支給するよう政府に求める要望を発表**しました。

3月16日に、政府は子ども一人当たり5万円の特別給付金の支給を発表。ふたり親を含め住民税非課税の子育て世帯全体に対象が広がりました。



調査・刊行物のご案内

LFAのホームページに新設いたしました「資料ダウンロード」ページより、2020年度に公開した下記の資料がご覧いただけます。

ぜひ一度、ご覧ください。

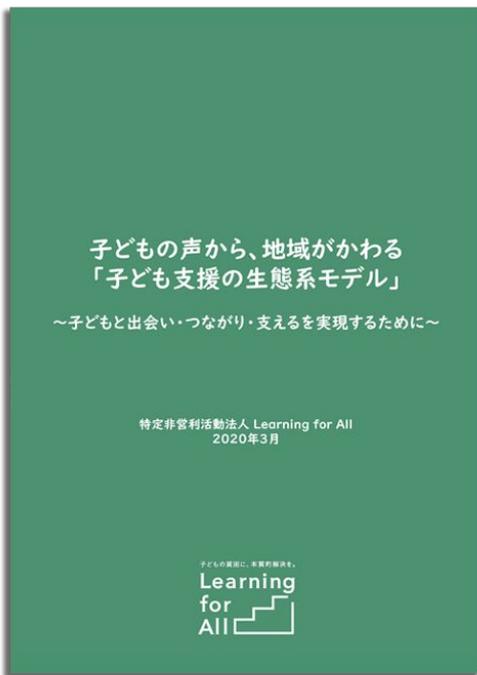
※DLページはこちら→

<https://learningforall.or.jp/download/>



⇒2020.03 発行

子どもの声から、地域がかわる「子ども支援の生態系モデル」



～子どもと出会い・つながり・支えるを実現するために～

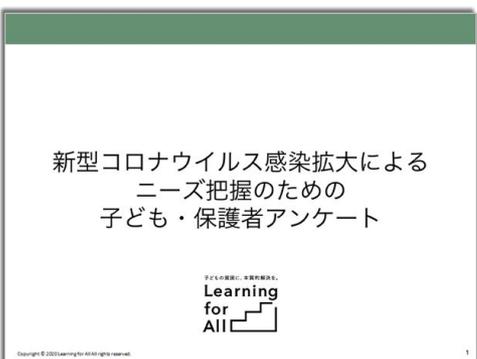
私たちがこれまで出会ってきた子どもたちの個別事例（個人情報保護のための改変をしております）と各地域の大人たちが抱える課題を取り上げ、その中でどのようにLearning for All が「子どもの声から、地域がかわる」子ども支援の生態系モデルの構築を進めているのかについて、多様な観点から記載をしております。

目次	
はじめに	3
第1章 子どもたちの声、学びの実際 「子どもの育期の権限性」	4
1. 心の子どもとのつながり	5
2. ツーアップから子どもとの真田	9
3. 子どもたちがいつかの未来へ	14
第2章 子どもを支える大人とその課題	17
1. 子どもを支える大人たち	18
2. 大人の課題	22
第3章 子ども声から、地域がかわる 「子ども支援の生態系モデル」	29
1. 必要とされる包括的支援	30
2. 「子ども支援の生態系モデル」と大人のストーリー	39
3. Learning for Allの取り組みが心をお持ちの方へ	47
協働者からのコメント	48
おわりに	49



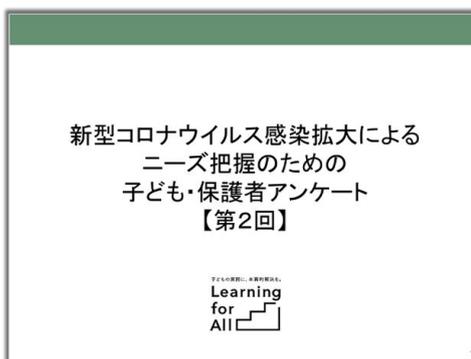
⇒2020.04 発行

新型コロナウイルス感染拡大によるニーズ把握のための子ども・保護者アンケート



⇒2020.05 発行

新型コロナウイルス感染拡大によるニーズ把握のための子ども・保護者アンケート 第2回



⇒2021.03 発行

子ども包括支援実践報告書



2020年度は、これまでに比べて非常に多くの企業様や個人サポーターの皆様がLFAの活動を知り、サポーターになってくださいました。
皆様の力強いご支援のおかげで、コロナ禍にもかかわらず、LFAの活動は大きく加速・前進しました。

個人サポーター様

2600名

※2021年度3月末時点

企業サポーター様

60社

※2021年度3月末時点

⇒サポーターの皆様と共に！

今年度はコロナ禍の中、直接サポーターの皆様と集まることは難しい年でしたが、この困難を乗り越えるにあたって大変多くのお力添えをいただき、例年以上に皆様の存在を心強く感じ、勇気をいただいた一年となりました。

昨年4月に物資の寄付依頼をさせていただいた際には、皆様から段ボールに**いっぱい**のマスク、**消毒液**を届けていただきました。子どもたちのために、**手作りマスク**を作ってくださいました方もいらっしゃいました。

Zoomで行った**15回のオンラインイベント**では、**延べ624人のサポーターの方にご参加**をいただき、**多数の激励の言葉を頂きました**。

クラウドファンディングにも多くのご協力をいただいた他、感謝祭、活動説明会などもサポーターの皆様のご協力を得て、企画から一緒していただきました。

2021年度も、皆様と共に。
子どもたちのために、私たちと共に歩んでくださいますよう
どうぞよろしくお願いいたします。



メディア掲載

コロナ禍でのオンライン支援活動などが高く評価され、多くのメディアにてLFAの活動を紹介いただきました。

また、代表 李の密着取材による番組放映など、テレビでの **長尺ドキュメンタリー番組** にも取り上げていただき、LFAの活動をこれまで以上に多くの方に知っていただく機会となりました。

⇒ 2021年5月16日(日)NHKスペシャル「ビジョンハッカー」



16日(日)に放送したNHKスペシャル「ビジョンハッカー」にて、代表 李を中心に、LFAの活動を大きく取り上げていただきました。

⇒ 2021年6月10日(木)TBS「あさチャン！」



番組内コーナー「SDGsな未来へ」にて、LFAの活動が特集されました。

番組ではLFAが提供する無償の学習支援や、居場所づくりなど活動紹介のほかにも、大学生ボランティアや、学生時代にLFAが運営する拠点に通っていた卒業生へのインタビューなども放送されました。

メディア掲載

2021年1月20日(水)日本経済新聞 朝刊
「Game Changer-挑戦者たち-」



斬新な発想で地球規模の問題解決やビジネス創造に挑む1980年代以降に生まれたミレニアル世代のリーダーらを取り上げるコーナーに、代表 李のインタビューが掲載されました。

2021年5月3日(月)日本経済新聞



日本財団によると、2016年の助成開始後、同様に日々、常勤の同じような居場所が全国30カ所に運営が後継することが有効な生じた。「子ども一人一人が、家族や子どもが抱える課題は、500拠点を目ざして増やしたい」と担当責任者、学校はもともと自治体や住民、企業など地域の関係者が支える仕組みで、支え手を増やしていく必要がある。経済的に苦しい家庭が増える中、支援の「糸口」として居場所の重要性は増す。5月にはあそびほすの活動が広がった。NPO法人「ラーニング・フォー・オール」の子ども支援事業部が中心となり、子どもを元気づける取り組みは、さら

日本経済新聞にて、LFAの居場所支援拠点の取り組みが紹介されました。

『放課後の子どもの居場所「困難」把握し支援の糸口に』がテーマの記事内で、子ども支援事業 部長の入澤充が取材に答えております。

日本財団の「子どもの第三の居場所」第1号拠点として立ち上がり、現在LFAが運営をする埼玉県戸田市の居場所支援拠点について触れており、「(拠点内で)子どもに安心を与え、声を発してもらうために大切なこと」について話しました。

メディア掲載

⇒ 2021年2月2日(火)NHK「ハートネットTV」



「コロナで取り残される子どもたち”教育の機会を守りたい”というテーマで放送された番組内にて、LFAの中高校生向け支援拠点が紹介されました。

子どもたちに寄り添いながら勉強だけでなく、彼らの興味関心を一緒に探る現場スタッフの様子や、拠点に来ている子どもたちへのインタビューが放送されました。

⇒ 2020年度 メディア掲載一覧

2020/04/08	web	NTTドコモ「マイマガジン」
2020/04/25	新聞	朝日新聞be
2020/05/19	新聞	朝日新聞
2020/05/20	新聞	読売新聞
2020/05/23	テレビ	NHK「ニュース645(関東・山梨・長野)」
2020/06/12	web	バズフィード
2020/08/17	テレビ	NHK Eテレ「ウワサの保護者会」
2020/09/14	新聞	日本経済新聞
2020/10/25	web	日本経済新聞電子版「デンシバ Spotlight」
2020/10/29	web	リディラバジャーナル
2020/11/19	雑誌	電通育英会 会報誌「IKUEI NEWS」
2020/11/20	web	政治山
2020/12/12	テレビ	ゆとりずむ
2020/12/15	雑誌	週刊朝日
2021/01/01	雑誌	教師のチカラ
2021/01/12	雑誌	週刊朝日
2021/01/15	web	AERA dot.
2021/01/19	web	日本経済新聞「Gamechanger」
2021/01/20	新聞	日本経済新聞「Gamechanger」
2021/02/02	テレビ	NHK「ハートネットTV」
2021/02/06	新聞	日本経済新聞
2021/02/17	新聞	信濃毎日新聞
2021/02/26	web	日本金融政策公庫
2021/03/08	雑誌	週刊ダイヤモンド
2021/03/09	web	ダイヤモンド・オンライン
2021/03/27	テレビ	ウワサの保護者会
2021/03/31	雑誌	人権TOKYO



その他ピック

助成金プログラムがスタートしました！

『ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金』は、地域で子ども包括支援を実践する団体を、資金と研修や伴走支援などの非資金的でもサポートをする助成プログラムです。

LFAがこれまで進めてきた「地域協働型子ども包括支援」を広め、全国の子どもたちを支える実践者の応援を行っていきたいと思い、ゴールドマン・サックス様、パブリックリソース財団様のご協力を得て発足。

2021年度から3年間で17団体へ総額1.2億円(※)の資金援助を予定しています。

※助成金額は支援団体数によって変動する可能性があります。

ゴールドマン・サックス 地域協働型子ども包括支援基金

当基金では2つの助成プログラムを用意しています。下記よりご希望のものをお選びください。



《助成タイプA》
地域協働型子ども包括支援構築・
組織基盤強化助成

助成タイプAは、地域で子どもと出会い・繋がりが支える「子ども包括支援」を実現するための運営強化、改善と組織基盤強化を応援するものです



《助成タイプB》
子ども支援活動強化助成

助成タイプBは、地域で子どもと出会い・繋がりが支える「子ども包括支援」を実現するため 既存活動の強化や新規支援拡充を応援するものです

ソーシャルフィルム 「二人の高校生」公開

2020年5月1日(土)、「暮らす環境が違う二人の女子高生」を通して「子どもの貧困」を考えるソーシャルフィルムを公開しました。



代表 李 個人Twitter開始

代表 李がTwitterの個人アカウントを開設。LFAの活動に関するコメントや、子どもの貧困にかかわるニュースへの意見等を個人として投稿しています。



公式サイト、リニューアル！

LFAの活動内容の広がりや全体像をお伝えするため、ホームページをリニューアルいたしました。



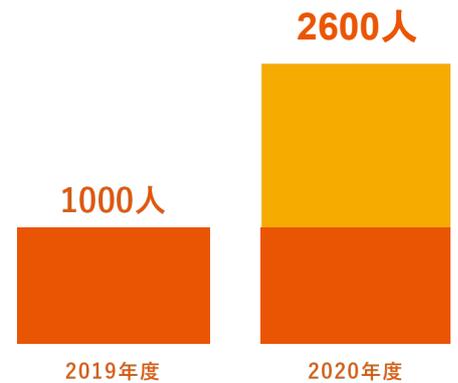
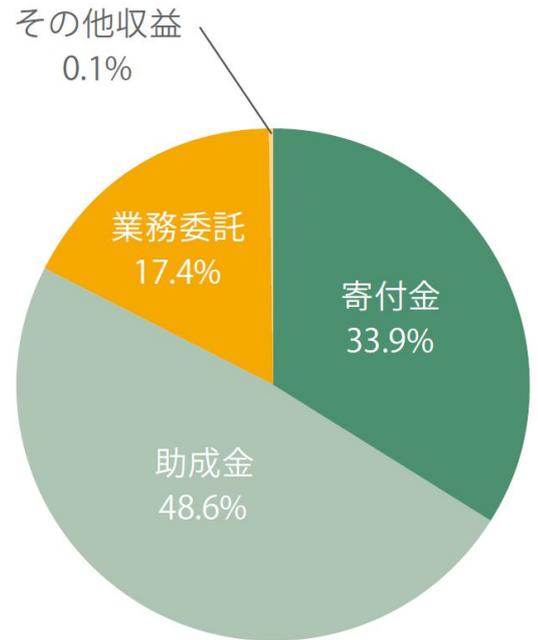
収支報告

[収入内訳] ※単位:円

- 寄付金 | 114,948,138
- 助成金 | 165,172,412
- 業務委託 | 58,991,804
- その他収益 | 426,201

経常収益計 | 339,538,555

LFAの活動は、個人や法人・財団からの支援で支えられています。
 収入のうち、最も多い約5割を占めている助成金は、特定の事業に活用されており、期限付きとなっております。
 続く寄付金は、使用用途を定めず、新型コロナウイルスへの緊急対応など、子どもを取り巻く環境変化に応じて柔軟に活用をさせていただいています。
 2020年度は、新たに多くの方に個人サポーターとしてのご支援をいただき、全体収入のなかでも寄付金が占める割合が例年に比べて高くなっています。
 業務委託は、自治体からの委託によって運営されている事業の収入になります。



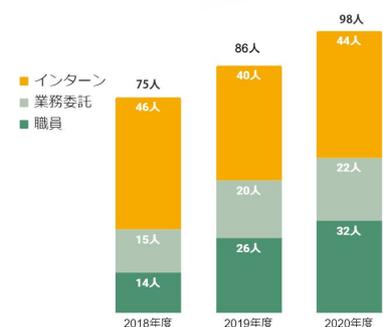
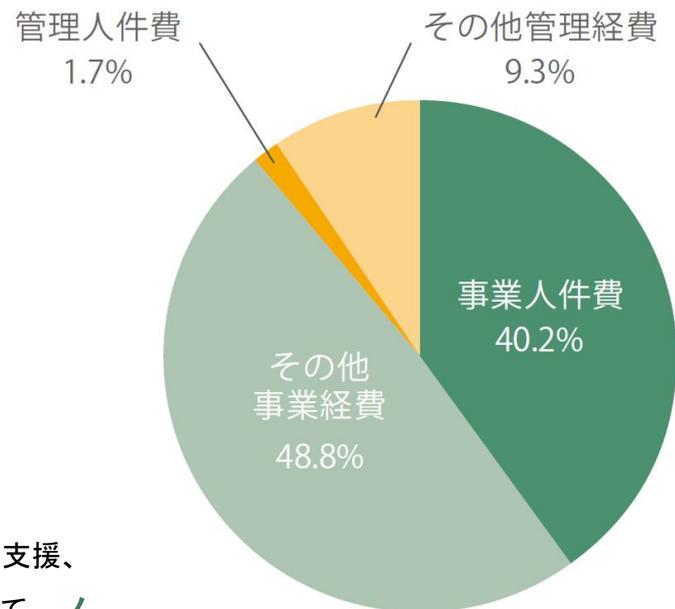
個人サポーター(寄付者)の数の推移

[支出内訳] ※単位:円

- 事業人件費 | 139,923,400
- その他事業経費 | 170,188,104
- 管理人件費 | 5,936,791
- その他管理経費 | 32,399,399

経常費用計 | 348,447,694

LFAは、3つのアプローチに基づいて事業を行っています。
 ①「一人に寄り添う」活動として、子どもへの直接支援(学習支援、居場所づくり、食事支援など)、②「仕組みを広げる」活動として、ノウハウ展開やナレッジサイトの運営、③「社会を動かす」活動として、メディアを通じた課題の普及啓発活動や人材育成、政策提言活動など。
 支出の内訳に関しては、上記の事業活動にまつわる人件費・経費が約9割と最も多くを占めており、組織全体の管理人件費・経費が約1割になっています。



従業員数の推移

あたたかいご支援に、心より感謝申し上げます。

引き続き、子どもの貧困の本質的解決に向け、

皆様と心をひとつにして、前進して参ります。

⇒コミュニティ推進事業部メンバーより

いつもLFAを支えて下さり、ありがとうございます。
2020年度がスタートし、コロナの影響を受け先が見えない中、
サポーターの皆様から届いた大量のマスクや消毒液、
あたたかい応援メッセージに勇気を頂きました。
LFAには、素敵な仲間が、みんなにもいる!という事実に、
涙腺が何層も崩壊しました。
皆さまから届いた“想い”を子どもの貧困の本質的
解決へと歩みを進める事で責任を果たしたいと思ひます。
引き続き、よろしくお祈り致します。

コミュニティ推進事業部長 石神駿一

いつもあたたかいご支援、ありがとうございます。
長らくコロナ禍でサポーターの皆様ご自身も
大変なお状況の中で、子どもたちのことを思ひ
ご支援を続けてくださっていることに、日々
勇気をいただいております。皆さまとばら子ども
の貧困を解決したいと確信しております。
これからもどうぞよろしくお願い致します。
コミュニティ推進事業部 小笠昇子

いつもあたたかいご支援を賜り、
誠にありがとうございます。

コロナの最中において、ご自身の生活も
様々な変化を余儀なくされり中で、
LFAの事を忘れずに応援いただけている事、
本当に感謝です。

どのような状況にあっても、すべての子ども達も
自分の可能性を信じることで至る社会の実現に
向けて邁進してまいります。

引き続きの ご支援、お力添えを宜しくお願いします。

コミュニティ推進事業部 岸本尚子

サポーターの皆様へ

いつも、LFAを通して子どもたちをサポート頂き、
本当にありがとうございます!!

オンラインではありますが、活動説明会や様々な
イベントで皆様と直接やりとりさせて頂き、いつも
背中を押してもらっているように、パワーをもらっています!!
厳しい現実が続きますが、これからも皆様と一緒に
一歩ずつ進んでいきたいです。

引き続き、あたたかい応援をよろしくお願い致します 😊

コミュニティ推進事業部

原田 様子

いつも温かいご支援を頂き、誠にありがとうございます。
日々、サポーターの皆様から応援のメッセージを頂き、
嬉しくも同時に、子どもたちへ結果を届けるために
元気をもらおうと思ひます。

LFAに所属する学生として目の前の子どもたちに向きあい、
サポーターの皆様にも現場の本業を思い出して下さると
思ひます。

引き続きサポーターの皆様とこの糸でつながり
参ります。

コミュニティ推進事業部 インターン

南池 舞

コロナ禍により、取り上げられることが増えた「子どもの貧困」。
さらなる困難に直面した子どもや家庭を知り、Learning for Allへの
支援を申し出てくださる方が増えた一年でもありました。
ありがとうございます。

人と関わる機会が必ず少なくなっている昨今ですが、「貧」や「困」に
ある子どもたちに思いを寄せ、取り組む私たちに力強い支援が
寄せられることは、この問題に取り組みなければならない、という
支援者の方の意志の現れだと思ひます。

今後とも お力添えをいただければ幸いです。
よろしくお願い致します。

浦上綾子

下記をはじめとする企業様・団体様より、寄付・助成金をいただいて
活動を実施させていただきました。

Goldman
Sachs
Gives

MUFG
三菱UFJフィナンシャル・グループ

ORACLE

CARLYLE

WELLINGTON
MANAGEMENT®

STATE STREET

大和証券グループ

IBM

MUFG
三菱UFJモルガンスタンレーPB証券

pwc

ECナビ

LEARNING
AGENCY

DEAL

Cambridge
Technology Partners



みてね 基金



子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning
for
All 

〒160-0022
東京都新宿区新宿五丁目1番1号
ローヤルマンションビル404号室

TEL:03-5357-7131
E-mail:pr@learningforall.or.jp



公式HP



facebook



LINE



Twitter



Twitter
代表 李

HPやSNSでは団体情報をお届け中！

- ◆学生ボランティアインタビュー
- ◆子どものエピソード
- ◆メディア掲載情報

左のQRから
ぜひご登録ください！